



口笛奏者

柴田 晶子

たけれど、まさか口笛にコンクールがあるのかと驚き、すぐに記事にあった口笛奏者の情報を調べてコンサートを聴きに行きました。そこで聴いた音色は、これまで私が知っていた口笛とは全く異なる「音樂」としての口笛でした。私はすっかり魅了され、口笛教室に通い猛練習を重ねた末、2008年には国際口笛コンクールへの初出場を果たしました。そして、三度目の挑戦となる2010年に初優勝、次に出場した2012年は二度目の総合優勝をすることができました。

私は、演奏をするときにはいつも「音樂としての口笛」をお客さまに感じて頂けるように心がけています。口笛の音色の美しさを表現するとき、あるイメージを心に描きます。それは、広い草原と遠くに見える山、上空から吹く少し涼しい風、というイメージです。漠然と抱いていたイメージですが、それは幼い頃から大好きな秋田の風景だったのだということになりました。私は自分のプロフィールに最初に必ず「秋田県出身」と書いています。実際には秋田に長く住んでいたわけではありませんが、いろいろな土地に住んできたからこそ、秋田の自然の素晴らしい人の温かさがよくわかるのだと思っています。

私の生まれ故郷は秋田です。2歳まで秋田で暮らし、その後は父の仕事の関係で関東に移り住みました。残念ながら秋田に住んでいた頃の記憶はありませんが、子どもの頃から私にとって秋田は特別な場所でした。毎年お盆は必ず秋田に帰省して両親の実家に滞在し、親戚一同が集まる中、普段よりお酒を飲む父、秋田弁で楽しそうに話す母、いつもと違う開放的な両親の姿を見るのがとても好きでした。その笑顔の真ん中に並ぶおいしい料理の数々。特にご飯がおいしくて、何杯もおかわりしていたことを思い出します。そし

て、関東にはない秋田の素晴らしい景色、青々とどこまでも広がる水田と遠くそびえる鳥海山。行きは車窓からその風景が見えてくるだけで嬉しくなり、帰りは遠ざかる景色を見ながら悲しい気持ちになつたことをよく覚えています。

口笛音楽に出会ったのは、北海道での学生時代を経て都内の民間企業に就職し、2年が経った頃のことです。新聞に掲載されていた「国際口笛コンクール」の記事を偶然読んだことがきっかけです。そういえば自分も幼い頃から口笛が得意だったことを思い出します。そし

コンクールで初優勝した頃から徐々に演奏依頼を頂くようになり、結婚とともに勤めていた会社を退社して、本格的に口笛奏者としての活動をスタートしました。少しずつ全国各地で演奏する機会が増えてきた頃、縁あって秋田で演奏する機会を頂きました。生まれ故郷とはいえないが、親戚以外に知人がいるわけでもなく、果たしてお客様が集まるかどうか不安でしたが、驚いたことに、当日は600人の方々が来てくださいました。これまでの演奏会では考えられないほどの人数

でした。コンサート終了後もたくさんのお客さまがやさしい言葉をかけてくださいり、それは涙が出るほど嬉しく、生まれ故郷・秋田の温かさを感じました。

●しばた・あきこ
1983年生まれ。秋田市出身。北海道大学経済学部を卒業後、都内での民間企業勤務を経て、フリーの口笛奏者として全国・海外で演奏活動を行う。国際口笛コンクールにて、2010年(中国)・2012年(アメリカ)の二度、成人女性部門総合優勝を果たす。2011年からは年に一度イタリア・イス・フランスでの演奏会に参加し各地で好評を博す。2012年、埼玉県川口市より芸術奨励賞を受賞。学校、病院、レストラン、ライブハウス、コンサートホールなどさまざまな場所で演奏を行う。その他、テレビ・ラジオへの出演や口笛教室講師も務める。